

第17回 東京大学制作展

開催のお知らせ

今秋、東京大学にてテクノロジー×アートの展覧会「第17回東京大学制作展」を開催する運びとなりました。本展覧会は日々東京大学大学院学際情報学府の学生が研究で培っている技術を芸術として昇華させることで、広く一般の方に技術を親しんで頂く接点となるべく開催しております。

開催概要

| | | | |
|------|---|-----|---|
| 会期 | 2015年11月12日(木)～16日(月) (全5日間) | 主催 | 東京大学大学院 情報学環・学際情報学府 |
| 会場 | 東京大学本郷キャンパス 工学部2号館 2階展示室 2階フォーラム(中庭) 9階 92B | WEB | http://www.iiiexhibition.com |
| 開場時間 | 11時～19時 | 入場料 | 無料 |
| 最寄駅 | 南北線 東大前駅 徒歩5分 丸ノ内線/大江戸線 本郷三丁目駅 徒歩8分 千代田線 根津駅 徒歩8分 | | |

今年度のテーマ



“わたしエクステンション”

わたし。どこからがわたしでどこからがわたしでないのでしょうか。これは、他者と共に社会に生きるわたしたちの根源的な問いです。

石器からiPhoneにいたるまで、古今東西の技術は、「わたし」を拡張してきました。時代が進むにつれて、わたしにできることはどんどん広がっていきます。今や、電話やネットのおかげで遠くの人にもわたしの声や思いは届き、Google Mapによってわたしの土地勘は世界の隅々にまで及びます。技術に媒介されることで、わたしや社会そのものがますます便利に、自由に、広がっていくのです。

一方で、拡大とともにその境界は曖昧になっています。「ネットの声」と紹介された「わたし」のつぶやき、Amazonに勧められて買った「わたしの欲しいもの」、「わたし」の代わりに会議に「出席」してくれるロボット…。一体、どこまでを「わたし」と認めればよいのでしょうか。

「自分」という言葉があります。自らを分けると書いて、自分。

第17回制作展では「わたしエクステンション」というテーマを通じて、「わたし」を拡張させていくさまざまな技術と、「自分」つまり、わたしと社会の境界について問うてみたいと思います。

ご挨拶



苗村 健 (中央)

東京大学大学院 情報学環／情報理工学系研究科 教授

小松 宏誠 (右)

東京大学大学院 情報学環 非常勤講師

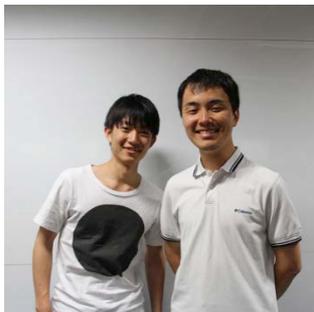
赤川 智洋 (左)

東京大学大学院 情報学環 非常勤講師

東京大学大学院情報学環・学際情報学府では、学生たちが自らの研究的な関心をもとに表現活動に挑戦する学際的实践の場として「東京大学制作展」を開催してきました。表現活動と研究活動の両立は、同大学院が2000年に設立された当初からの大きなテーマです。表現活動としては新たなキャンパスそのものから創出するような試みを、研究活動としては机上の空論に終わらない社会に開かれた研究スタイルとしての制作展示に取り組んでいきたいと考えています。

今年度は、我々の身体の限界を超えた未来を描き出したいという意気込みから、「グッバイ・マイ・ボディ」というテーマで7月に制作展 EXTRA を開催しました。そこでの経験やフィードバックを活かし、今回の第17回東京大学制作展のテーマは「わたしエクステンション」に決まりました。

まだ粗削りではありますが、可能性を秘めた原石たちの取り組みをご覧ください。みなさまのご来場を教職員、学生一同、心よりお待ちしております。



村田 遥人 (左)

2015年度制作展 プロデューサー

東京大学大学院 学際情報学府 先端表現情報学コース 河口研究室

片山 健 (右)

2015年度制作展 ディレクター

東京大学大学院 学際情報学府 先端表現情報学コース 稲葉・岡田研究室

東京大学制作展では作家である学生が作品の制作はもちろん、展覧会の企画や運営も同時に行います。このような普段の研究活動では得られない経験は私たちにとって貴重な機会となっています。さらに、様々な研究領域の作家同士が意見を交換することが新しい知見を得る機会となり、それらが作品にも生かされています。作家一同、ここでしか見られない作品と共に皆様のご来場をお待ちしております。

本展覧会の実現にあたり、ご協力くださいました皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。(村田)

『グッバイ・マイ・ボディ』と題した制作展 EXTRA を経て、今回の制作展を通じて表現すべきテーマについて考えた結果『わたしエクステンション』という言葉に至りました。このテーマは必ずしも作品の方向性を絞るためではなく、専門や興味の異なる作家たちによる多様な解釈を生み、表現に繋ぐためのきっかけと考えています。

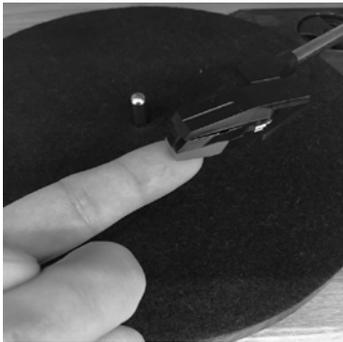
テクノロジーによる「わたし」の変化を「お別れ」ではなく「拡張」と捉え直したとき、どのような作品が生まれるのか。ぜひご体感ください。(片山)

作品介绍

今回掲載しているのは展示作品のごく一部となります。

全作品(約 20 作品)のご紹介は公式サイト(<http://www.iiiexhibition.com>)にて行う予定です。

いずれも個性あふれる作品となっておりますので、ぜひともご覧いただけると幸いです。



指紋のレコード

池田 昂平

本作品では人間の指紋をレコード盤の溝に見立て、針に鑑賞者の指先が触れると指紋のパターンに応じた音が聞こえてきます。生体認証のために使用される場面が増えている指紋をレコードの模様として捉えなおす事で、新たな視点で自身の肉体を見つめる機会を与える作品です。 EXTRAにおいて、手相に似た地形を世界地図の中から表示する作品を制作した作家が「新たな身体イメージの提案」を軸とした身体の使い道の拡張を、本作品から試みます。



Pseudo-X

對馬 樹、馬場 章

1本の磁気テープを複数の再生ユニットが読み取り、再生します。

各ユニットから聞こえる音は元の音楽データそのものですが、

総体としての音響に元の音楽を聴きとることはできません。

正しい情報のみで嘘を構成する再生装置です。



Eye See (w)

片山 健

Eye See は、眼のようなかたちのカメラであり、その映像から人の顔を認識して動くロボットでもあります。

人は他の「眼」に対して視線を感じますが、人工的な「眼」との間にもそのコミュニケーションが成立するのかを試す作品です。

今回の展示では EXTRA に比べ、より「眼」らしい振る舞いが追加されました。



不安定な自我

野元 彰

この作品は、物体の影を変化させ幻想的な影の世界を作り出す作品です。

特殊な光源を用いることで、照らし出された物体の影がゆらゆらと

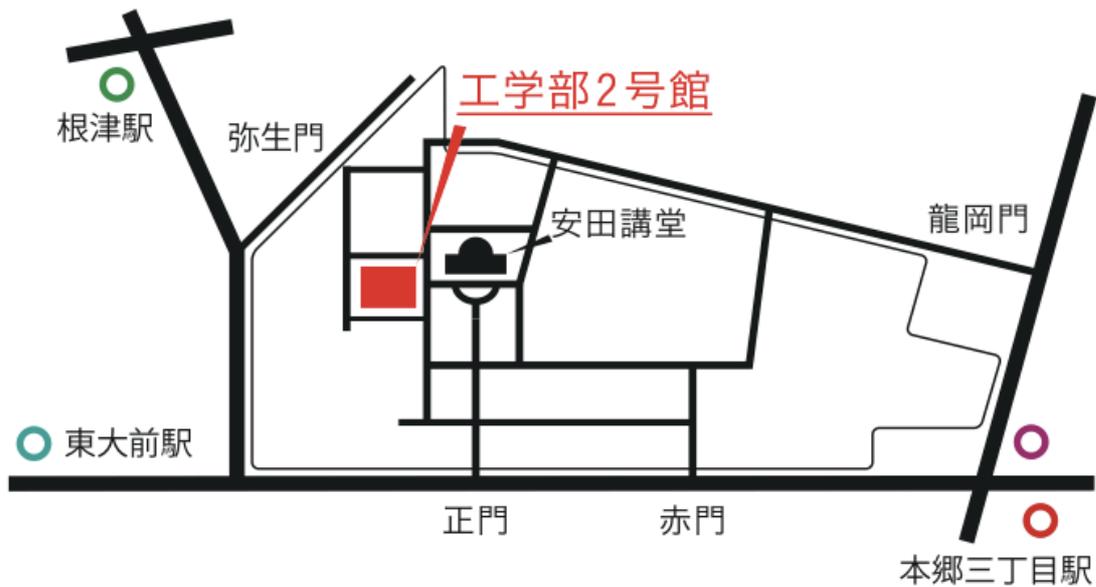
揺れ動いて見えます。今回の展示では EXTRA に比べスケールアップし、

実際にお客様ご自身の影でこの世界を体験していただけます。

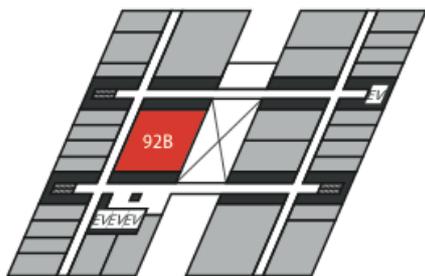
会場案内

東京大学本郷キャンパス

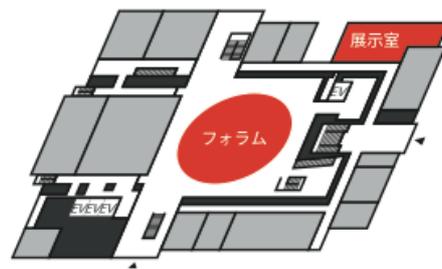
工学部2号館2階展示室・2階フォーラム（中庭）・9階92B



工学部2号館9階



工学部2号館2階



最寄り駅:

南北線 東大前駅 徒歩 5 分

丸ノ内線 / 大江戸線 本郷三丁目駅 徒歩 8 分

千代田線 根津駅 徒歩 8 分